

# 登戸学寮ニュース

第16号 2024年5月10日発行

## —新年度を迎えて—

理事長 小島拓人

登戸学寮は今年も新入寮生を迎える季節となりました。今年の新年度の期初寮生数は33名、フレッシュさに溢れた新入寮生6名と共に新しい歩みを始めました。過去5年間の期初の年度毎の寮生数は2019年度22名、その後32名、35名、35名、そして昨年度38名と年毎に漸増傾向の中になりました。そこで、今年女子寮が併設されてからこれまで達成されたことのなかった定員39名の満室を目標としました。しかしながら実際の期初寮生数は33名（定員39名の85%、6室の空）となりました。

寮事業では寮生の数がすべてではありませんが、寮生数は寮事業の活力を示唆する一つの指針であることは間違いありません。今年地元大学（国公立）と首都圏大学の掛け持ち受験をする方が多く、地元大学が合格であれば首都圏の大学進学はなく従って登戸学寮への入寮を辞退されるケースが目立ちました。その理由としましては、コロナ禍も含めて全般的な日本経済の落ち込みという経済環境の中で経済的な負担がより少ない地元大学への進学＝自宅通学が優先されたことが挙げられましょう。しかしながら、少子高齢化が進展する中で各地域の大学も独自の整備充実の不断の努力がなされて来られたわけであり、相対的に首

都圏の大学の魅力が薄れてきたことありましよう。あるいはITの発展浸透により企業活動がリモートワークを可能としてより柔軟な地方展開を可能としてきたことも自宅通学を推進する背景として考えられます。全般的な首都圏一極集中の是正や地方創生は久しく日本社会の喫緊の課題として挙げられて来たところであり、漸く日本全体に地方活性化の兆しが表れてきたと読み解くのであれば、登戸学寮の事業とは独立にそれ自体は歓迎すべき傾向であると思われまいます。

しかしながら、世界は新しい年2024年を迎えても権限や権力を持った特異な指導者が闊歩して世界の大多数が望んでいない戦争が継続されています。そして日本や世界の将来がいろいろな意味で不透明感に満ちているという現実があります。そうした現実社会への正しい対応のためにも、長い目を見た社会への布石という視点からも黒崎幸吉先生が創立された「次代を担う若者のために永遠の相にあって聖書による全人格教育を目指した登戸学寮」の存在意義は不動であります。そして登戸学寮自身が時代を担う若者に魅力ある存在であり続けるために、翌年度に向けた入寮条件の見直しや留学生も含めた募集範囲の拡大等の諸対策を考えて参りたいと思ひます。

## 特集 新入寮生紹介

新年度を迎えて	…… 1	ワシントン国際開発だより第2号	…… 7
近況報告	…… 2	理事会・評議員会報告	…… 8
新入寮生紹介/寮生の在学大学等名	…… 3	2024年度予算書	…… 9
聖書の言葉	…… 4	卒寮生インタビュー	…… 10
黒崎幸吉賞授賞式/HCD報告	…… 5	寮友会報告/コラム 俳句鑑賞の手引き	…… 11
寮生活動報告	…… 6	寄附者ご芳名	…… 12

## 近況報告 世界における学寮の日々

2024年のこの春、学寮は8人の寮生を無事社会に送り出しました。7人が学士号、1人が修士号を得ての巣立ちでした。自動車部の主将を勤めた水越創人君はエンジンの研究を通じて農業機械会社に濃野開君は修士課程で漆の研究に従事し、信頼を寄せてくれた計測機器会社にまた韓国からの留学生温ハンビツ君は日本語能力をいかし両国の架け橋となる人材派遣会社に、また日本美術研究に打ち込んだ中村真子さんはその多方面の能力がかわれIT企業に勤めることになりました。また「芸は身を助く」で鉄道好きの檀渕陸人君は鉄道系会社にキャラグッズ好きの川口陽久君はグッズ企画制作会社に本好きの結城史音君は書店に就職しました。宣教を志し来日したセス クアント君は英語を教えながらその準備に勤しみます。

また、この3月濃野君とセスさんはそれぞれ主にある伴侶ノエルさんとジェスさんを得てPazz Churchで挙式し家庭を築きました。ご近所の毛利さんを介してのご縁で近くの福音宣教団体Paz Churchとかかわりを頂いた学寮はこのお二人のように信仰熱心な寮生を受け入れる恩恵をいただいています。やはり日本伝道を志し日本語学校に通う医学生ケーレブデーヴィス君は一時帰国中ですが、寮生たちはこれまで会ったこともないタイプの外国の若者たちとの出会いに大きな刺激を頂いています。さらにこの夏一人オクラホマからダニエル君を迎える予定です。

この春8人との入れ替わりに6人の若者たちを迎えました。学生寮はこのように親御さんから一時的に預かり、なんらかversion up経て社会人となるのをサポートすることが使命なのであります。若者たちはそれぞれの人生を引き受け、前進しています。

翻って現代社会そして国際情勢に目をやると、目まぐるしいスピードで技術革新が起きています。人工知能の発達により多くの恩恵を受けるとともに、フェイクとリアル境界が定まらず疑心暗鬼に陥りがちな社会となりました。また3年目となるロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナさらにイランを

巻き込んだ戦争は一つ間違えば第三次世界大戦の恐れが現実的なものとなってきました。

このようななかでやはり立ち返るべき場所は信の根源性です。パウロは「君が君自身の側で持つ信仰を神の前で持て」と、自らの責任で人生の根本的な態度を決定し神の前に立つよう励ましています(Rom.14:22)。ひとが半信半疑であるとき、責任の所在があいまいなまま、自らの人生を正面から引き受けることもありません。「設立趣意書」にある「汝の若きときに汝の造り主を覚えよ」はまさにこの時代にあつてこそ、人生をまっすぐに導く指針です。

この春通訳の裏切りにあい、大きな騒動に巻き込まれた大リーグの大谷選手は「最も大切にしていること」として、「外から自分を見ている人々にとっても信頼される者となること」と挙げていました。これは「信なくば立たず」の著名人における新しい表現であり、彼の日頃の信頼にたる生活が今回の苦境を乗り越えさせたことは私ども皆にとって大きなレッスンです。

常に究極的に何を、誰を信じるかが問われています。その信が一切の行為に浸透していますので常に最善の行為選択を遂行するかが問われています。「福音」すなわち救いをもたらす「神の力」が父と子の共同行為により無償の「贈り物」であることに感謝しつつ、その力を幼子のように信じてしかも自らの側の根源からの参与、関わりとして責任ある人生を築いていきたいものです。世界は若者たちに託されません。これまでの問題を解決するには心を清め、真理を愛し、信ずべき方に人生を委ねるそのような生活によってのみ可能となるでしょう。学寮はその支援の場でありたいと思います。

千葉 恵



# 新入寮生いろいろ

今年度は新入寮生6名を迎えました。  
「①大学や寮生活への抱負」、「②好きな○○」について聞きました。

## 遠藤 優弥（えんどう ゆうや）

埼玉県



- ① 人と普通に話せるようになる
- ② 好きな食べ物 ケーキ

## 中村 華子（なかむら はなこ） 長野県

- ① 規則正しい生活を送り、新しいことに挑戦したい
- ② 好きな漫画 犬夜叉



## 堀内 京（ほりうち けい）

秋田県



- ① 大学生活と勉強についていくこと
- ② 好きなものは武術と格闘技



## 廣橋 環（ひろはし たまき） 群馬県

- ① 締め切りに余裕をもって行動できるようになりたい
- ② 特別に好きなおすしのネタを発表します  
はまちとサーモンです！！！！

## 中村 遥香（なかむら はるか）

神奈川県

- ① 新しいことにチャレンジしたい

- ② 好きなことは寝ること



## 新入寮生紹介

学習院大学 理学部 1年

## 中村 華子

私は、内村が「自分たちが生まれたときよりもこの世界を善くして逝きたい」という望みを持って、行動に移していたことをすてきだと思い、尊敬しました。自分のために時間やお金を費やす人もいる中で、この信念を持って生きていたことはすごいと思いました。

私は、今まで自分ごときが、社会に貢献したり、善いことをすることはできないだろうと考えていました。例えば、私は18歳になり、選挙に参加できるようになりましたが、自分の1票で選挙結果や世の中が変わったりしないだろうと、自分の無力さに失望していました。・・・自分にはお金を稼ぐ才はなさそうであるし、事業をなすこともできなさそうだし、教えることも、文学者になることもできないであろうから、自分は本当に無力だと感じていました。

しかし、最後まで読み、内村の「誰にも遺すことができるのは、勇ましい高尚なる生涯だ」という考えを知り、自分にもできることがあるのかと感銘を受け、自分も世の中のためにできることをやりたいという気持ちが強くなりました。実際に、本文を読んでいろいろな人々の生涯について知ったことで、それらの方々の生涯を知り、自分自身の原動力になりました。たくさんの人々のエピソードの中で、一番印象に残ったのは、カーライルのエピソードでした。本文で、彼が全身全霊を捧げて書いた原稿が燃えてなくなってしまっても、自分を鼓舞して、「革命史」を再び書き上げたことを知りました。その話から、例え自分にどんな不運や不幸があっても、その時にめげずにもう一度チャレンジする『ころろ』を垣間見ました。

## 寮生の在学大学等名 (50音順・太字は新入寮生・2024年5月10日現在)

男子寮 (18名)	女子寮 (15名)
青山学院大学文学部、慶應義塾大学商学部、国士舘大学文学部、昭和薬科大学薬学部、 <b>専修大学経済学部、専修大学文学部、玉川大学芸術学部</b> 、玉川大学農学部、帝京大学教育学部、田園調布学園大学人間福祉学部、東京大学工学部、東京藝術大学音楽学部、東京都市大学環境学部、HAL東京(2名)、明治大学理工学部、和光大学現代人間学部(2名)	国士舘大学文学部、 <b>学習院大学理学部</b> 、聖マリアンナ医科大学医学部、 <b>成城大学経済学部、成城大学文芸学部</b> 、洗足学園音楽大学音楽学部、玉川大学農学部(2名)、東京大学教育学部、東京大学教養学部、明治大学農学部(2名)、明治大学理工学部、明星大学人文学部、和光大学表現学部

無教会に特徴があるとすれば、神の言葉としての「聖書」への尊敬にあると思う。内村鑑三はテキスト注解に日々従事しつつ実人生による「実験」を介してキリストの生命に与かることに集中し、水の洗礼等儀式を「細事」とした。内村は聖書研究を「天職」と定めてから37年間で「ほとんど聖書全体」の注解（「ネヘミヤ、雅歌、哀歌と五小預言者を除く」）を公にし「現在でも日本語における聖書の一人による注解として最大である」（J.Howes *Japan's Modern Prophet*, p283）。その内村は言う、「旧約は新約を似て解すべし、新約は羅馬書を似て解すべし、羅馬書は其の第三章二一節より三一節までを似て解すべし、神の黙示に由り羅馬書第三章二一節より三一節を解し得し者は全聖書を解し得るの貴き鍵を神より授けられし者なりと信ず」（『聖研』172(1914)）。700人を集めた60回のロマ書連続講義(1921-22)においては神の前と人の前を分けないルター主義的な解釈の提示に留まり十全な解決ではなかった。

伝統的に今日まで義認論と贖罪論は無教会の中心的な課題であった。塚本虎二は「神の義」（『聖知』1944）において「神の義」（Rom.1:17, 3:21）をめぐるルターの「発見」即ち「人が神から受ける」「消極的（受動的）義」の理解は「結局半面の真理」と位置付けている（『著作集』第九巻p.167）。黒崎幸吉は「贖罪について」でルターによる代罰理解を否定し言う、「キリストはもとより人類の罪をおのれの罪のごとくに感じ給うた意味においてはわれらの罪を負い給うたのであった、しかしかかる態度に対しては神はますます感激し給い、ますます御子イエスを愛し給うたことこそ、神の御意の真の姿であるように思われてならない。かかる愛に充てる・・・その使命のために命を捨て給えるイエスに対し、神はこれを最悪の罪人として呪い給うたと言うようなことは、事実としてあり得ることであろうか」（『永生』1946『著作集』第四巻p.81）。この真剣な議論は次の世代においてもかわらない。

21世紀における挑戦は実はパウロの神学主張の中心的な箇所「ローマ書」3:21-31がヒエロニムスVulgata版以来（2世紀Vetus Latinaの「編

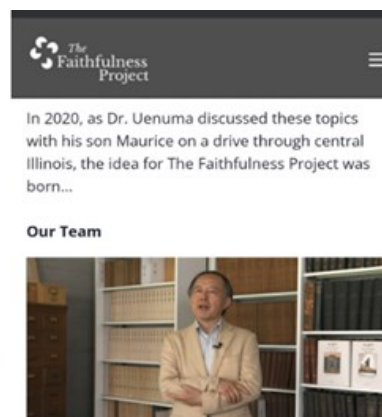
集」）誤訳されてきたため、神学が旧教と新教の争い等今日まで混乱をきたしたことに向けられる。3:22のギリシヤ語 *diastolē* は「（信じるすべての者のあいだに）区別（・差異）はない」ではなく、「神の義」とその啓示の媒介である「イエス・キリストの信」のあいだに「分離はない」と訳すべきであり、パウロは神の側の認識として父と子の信義の分離のなさを報告したのである。神によるご自身の義の啓示行為において、神の義は「今や律法を離れて」つまり律法の義とは分離され、「イエス・キリストに帰属した信」とは「分離なきもの」であった。それ故に「信の律法（信に基づく義）」(3:27)が「業の律法」より、より一層根源的な神の義である。3:23-26の長い一文（「なぜなら〜」）はなぜ分離がないかを説明している（「身代わりの愛の力能」『方舟』61参照）。

「水晶のような頭脳」（徳富蘆花）をした内村も何度読んでもはじかれるこの箇所をおかしいと思いつつ強弱ある人の心的状態としての信仰理解に終始し、彼は自らの告別式(1930.3)で「ローマ書」3:21-31を読むよう指示して死んでいった。

塚本の弟子であった父母から自然に与えられた義認論の宿題は山上の説教とともに探求の主題となり、これらを解くべく哲学に向かった。

『信の哲学』(2018)は内村以来三四代かけての蓄積を引き受け、言語と心の哲学に基づく一つの解であり、無教会の伝統の果実を新たな革袋に入れたものである。21世紀の今(2024.2)シカゴの友人らと共にThe Faithfulness Project (<https://thefaithfulnessproject.org/>)を立ち上

げ、HPに幾つかの論文と対話を掲載した。インクの染みの形が変われば血の染みが乾くか、世界の聖書研究に挑戦している。無教会の徒であることを恥としない。千葉恵



## 第3回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演

2023年11月25日（土）に対面、オンライン含め数十名のご参加を得て、第3回黒崎賞授賞式・講演会が催されました。これまでの2回の式が豊かに祝福されましたことは記憶に新しいと存じますが、今回は元学寮長坂内宗男氏のご推薦による呉得榮氏が受賞されました。台湾出身の呉得榮氏は1964年に国際基督教大学に留学され、また高橋三郎寮長のもとで無教会キリスト教を学ぶべく入寮されました。呉氏は独立伝道者としての生涯を88歳の今日まで歩まれています。氏は現在カリフォルニアにお住まいのため、ご講演「余はなお途上にて」（「方舟」64号に掲載）はご子息聖民氏により代読されました。呉氏は講演にてその祝福豊かに注がれた今日までの働きを振り返っています。氏は恩恵の露富士山頂にくだり東西二流に分かれたという内村鑑三の「初夢」に触発され、西は中国大陸を中心に、イスラム圏そしてユダヤにまで伝道旅行を敢行しました。氏は「初夢」の本質は「天」からの音信であって、内村個人の夢ではありません。もっと正確にいうと、

それは神からのヴィジョンなのだと言わざるをえない」と記しています。

呉氏は文書伝道にも従事され数多くの著作活動に従事しました。そのなかで内村鑑三の『羅馬書的研究』、『基督的安慰』等を中国語に翻訳刊行しています。今回『黒崎幸吉跨文化拾穂集

（三）』（台湾基督傳導会 2023）が刊行され式当日に40冊ほど届き参加者一同恵贈に与りました。



呉得榮氏（ご自宅からオンラインで）

呉氏がアジアの架け橋となるべく学寮に入り、学寮がこの力強い伝道者の誕生の一つの契機として用いられましたことに歴史の一つの展開の証を見る思いです。信仰一筋のお働きのご生涯に一同深く励まされました。

## 2023年度ホームカミングデイ

講演に続くHCDにおいて、学寮は寮生の活動を支援しておりますが、五人の寮生が活動を報告しました。「カンチェンジュンガ山脈アニデッシュチュリ遠征」（川嶋すず菜、明治大学農学部2年）、「京都・大阪日本美術研修」（中村真子、青山学院大学文学部4年）、「聖書宣教会第38回 教会音楽夏季講習会」、「マティアス・マイヤーホーファー マスタークラス」（牧真人、

東京芸術大学音楽学部オルガン科2年）、「近所の本棚」（結城史音、和光大学現代人間学部4年）、「ウィンタープログラム（アデレード大学）」、「TLPロシア語研修（アルメニア）」（吉野泉、東京大学教養学部2年）。若者たちの発想と活動の力強さ、豊かさに一同感銘を受けました刺激を頂きました。寮生の活動を今後も見守り支援いたしたく存じます。

## 第4回「黒崎幸吉記念賞」推薦お願い

第4回黒崎幸吉記念賞（今回から内容の継承拡大を契機に名称に「記念」が付加されます）への推薦を募ります。授賞式・講演会は2024年11月23日（土）午後2時を予定しています。

○本賞のコンセプトは「地の塩、世の光」です。学寮関係者からその働きにある人々を発掘することに心掛けております。若手の方々につきましてはその萌芽の状況であれ、学寮のこの共同の歩みにつらなるよう呼びかけ、今後の歩みを励ますことに重きを置いています。

○選抜方式は昨年同様二段階方式とします。2024年6月30日を第一次締め切りとして委員会は推薦者が被推薦者に接触することの要のないものとして推薦を募ります。なお幅広い人選の為、選考委員会は世代別に推薦委員を委嘱します。

所定の推薦書式を学寮HPからダウンロードし、被推薦者にお知りになっている範囲でご記入をお願いします（<https://www.noboritodorm.net/>）。学寮にEメール（或いは郵便）にて送付願います（[noborito@gakuryo.or.jp](mailto:noborito@gakuryo.or.jp)）。

8月31日を第二次締め切りとしてその間候補者に接触し受賞者を決定します。

## 和太鼓サークル

和光大学現代人間学部 2年 佐々木拓海

私は和光大学に入って一年間、小学校の先生になるために教育課程を履修しながら同校で活動を行っている和太鼓サークル「竜鼓座」に参加し、和太鼓を叩いてきました。その活動を通して感じたことをいくつか書いていこうと思います。

## 1. 竜鼓座で活動していて一番良いと感じたこと

今、竜鼓座に参加しているサークルメンバーは、私含めて3人ととても少ないです。和太鼓の性質上やはり人数が多いほうが音が大きくなり迫力も増すためあまりよくはありません。しかし、少人数であるからこそ連携がとりやすかったり、演目の改善点を共有しやすかったり、先輩と仲良くなりやすかったりした点が竜鼓座の良いところだと感じました。

## 2. 和太鼓を叩いているときに感じたこと

和太鼓を叩いたからこそ、和太鼓のリズムや振動一つ一つが、身体や心に重く響いてくるものだと感じました。実際にやってみることで痛感しましたが、和太鼓で大きな音を出すことは想像以上に難しかったで

す。しかし、その難しさを知っているからこそ先輩の偉大さを知れたし、和太鼓が出すとても繊細でありながらも重く響いてくる力強い音に惹かれました。

## 3. なぜ竜鼓座に参加したのか

ズバリ理由は「やってみたかったから」です。子供のころから様々な音楽を聴いていたうちに音楽というコンテンツに興味をわいて、大学生になったら聞くだけではなく、自分で音を引いてみたいという思いが大きくなっていました。そんな中で和光大学に入学して竜鼓座に出会って活動体験を通して座長や他のメンバーと仲良くなる事が出来たこともあって参加しました。

まとめ

竜鼓座での活動は、音楽と人々をつなげる素晴らしい経験であり、多くの学びや成長が得られたとても良い経験だったと思います。



ある日の練習風景

## 吹奏楽とともに

明星大学人文学部 4年 大城あい

私はこれまでの人生の半分以上を吹奏楽と共に歩んできました。思い返せば、吹奏楽がこんなにも熱中出来て大好きなものであり、自身の生きがいとも言えるものになるとは思いもしませんでした。

現在私は、明星大学学友会吹奏楽団に所属しています。楽団は、私の大学受験の決め手でもあり、4年間の大学生活を語る上で無くてはならない大切な存在です。なぜなら、この楽団が私自身を輝かせてくれたからです。

上京した頃の頃、何をするにも地元沖縄と比べてしまい、「やっぱり沖縄の方が心地いい」「東京の人は冷たいな」等の偏見を持ってしまいがちな私でしたが、吹奏楽を続けることで“逆境を味方に”することが出来たのです。



演奏会で

大学3年次は、団長を務めました。総勢100人を超える大所帯団体のトップに立

つことは、中高での部長経験とは全く異なるプレッシャーと責任が伴う反面、自分自身を試す場として沢山の学びを与えてくれました。大学生ですから、楽団の活動の他にもアルバイト、授業、就職や資格取得に向けた活動等、それぞれの楽団生活があります。でも、全員に共通していることは“音楽、吹奏楽が好き”であるということです。活動する中での根源でもあり最も大切にしなければいけないのは“音楽を愛する仲間と、ここでしかつくりえない音楽づくりをすること”だと私は思い続けています。これが大学吹奏楽最大の魅力なのです。この楽団でしかつくりえない音楽づくり、ここで得た沢山の出会い、自分自身の音楽に対する愛情や向上心は自分自身を輝かせてくれる武器になりました。

今年度は、学生生活最後の吹奏楽人生になります。集大成として悔いの無いよう、そしてここまで自由に吹奏楽に打ち込めた環境を与えてくれた家族や先生、仲間へ感謝し恩返しできる年にしていきます。

## ワシントン国際開発便り・第2号

吉野 裕 (1990年入寮)

今年の東京の桜の開花は、例年より遅かったようですが、ここワシントンDCでは、例年より2週間ほど早く、3月17日ぐらいには満開を迎えました。ワシントンを訪れる観光客の数もパンデミック前のレベルに戻り、ポトマック河畔やリンカーン・メモリアル、ワシントン・モニュメント周辺は花見客でごった返していました。

世界銀行・IMFでは、毎年2度、春季会合と秋の年次総会と、世界各国の政府代表が参加しての大きな会合を合同で開催します。今年の春季会合は、4月19日から21日にワシントンで開催されます。年次総会は、3年に一度ワシントン以外の都市で開催されることになっており、昨年10月の年次総会はモロッコのマラケシュで開催されたことから、今回の春季会合は、昨年6月に新しく世界銀行グループ総裁に就任したアジェイ・バンガ氏のもとの初めてのワシントン会合ということになります。

“End extreme poverty and boost shared prosperity on a livable planet”という新しい世界銀行グループのミッションが打ち立てられ、バンガ総裁のもと、様々な組織改革が世界銀行内で進められています。気候変動といったグローバル

開発課題、開発のための民間資金動員と世界銀行・国際金融公社(IFC)・多国間投資保証機関(MIGA)の世界銀行グループ3機関が一体となった統合アプローチ、知識銀行(Knowledge Bank)の役割、デジタル技術の取り込み、危機管理能力強化支援などが大きな柱になっています。

私が所属する欧州・中央アジア地域総局の業務にも、この改革が反映されつつあります。3月26日にウクライナに対する15億ドルの新規開発政策融資が理事会承認されました。長期化する戦争の中、マクロ経済安定化とともに、復興、成長の基盤構築支援ということで、貿易、金融セクター、エネルギー市場、財政改革の強化を通じて民間投資と生産性を高めることが重点です。また、ウズベキスタン、カザフタン、タジキスタン等の中央アジア諸国でも政策改革支援が活発化しています。再利用可能エネルギーを通じた電力供給や経済のエネルギー効率向上、そのためのセクター改革、それに際する貧困層へ影響を軽減するための社会保障制度強化、ならびに交通、ITインフラ投資に民間資金を動員するための投資環境整備といったところに我々の軸足を移しつつあります。

## 「祈り」を見つめ直す

帝京大学教育学部 2年 高田聖也



昨年から週に1度、私を含めた3人のクリスチャン寮生が中心となり、祈祷会を開催しています。この祈祷会には、神様を信じていない寮生も参加したことがあり、彼ら独自の視点に触れる機会があります。1年間、祈祷会を続けられたことに感謝しています。参加者は自分の好きな聖書箇所を読み、それについて興味深い点を自由に述べ合います。その後、個人の祈祷課題を共有し、互いに祈りを捧げます。聖書に関する話題だけでなく、日常生活の出来事についても和気藹々と話し合っています。

日本では神社への参拝が一般的で、「祈り」は自分や他者の幸運を願う行為として捉えられることが多いです。しかし、クリスチャンにとって、祈りは願い事だけでなく、神様への感謝や罪の告白、他者へのとりなしなど、多岐にわたる重要な意味を持ちます。

私の信仰生活における課題は、毎朝や毎晩、

一人で聖書を開き、祈る時間を確保すること、つまりデイポーションです。実家にいた頃は、家族と共にデイポーションを行っていましたが、一人暮らしを始めるとその頻度が不定期になってしまいました。大学の課題やSNSに時間を費やすことで、デイポーションを怠ることがあります。

誰かに依存した信仰生活を送ってきた私は、身体的、精神的、経済的な自立だけでなく、霊的な自立も求められています。自立とは、他者の支えを受けながらも自分自身を律し、生活していくことだと考えます。

洗礼を受けたとしても、私たちは罪深い人間であり続けます。神様との関係を遠ざけることがあります。そのような弱さを抱える私に、神様のもとへ立ち返る勇気を与えてください、と祈り続けたいと思います。

# 理事会・評議員会 報告

## 1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の定例理事会及び評議員懇談会は2024年3月12日（土）午後2:00~4:30に対面及びZoom会議のハイブリッド形式で開催されました。以下に主要議事内容について報告します。

## 2. 2024年度事業計画及び予算

以下1) ~3) のとおり、2024年度事業計画とともに新年度予算・設備投資及び2024年度積立額（別表参照）が承認されました。

### 1) 事業計画について

・基本方針を「学寮事業基盤の整備と拡充」として、新型コロナウイルスの5類移行対応、黒崎幸吉賞第4年度展開、寮生確保（本年度期初38名目標）、周年寄附から各年度寄附への重点シフト、キャリアコンサルティングも含む寮生活活動支援、各種インフラの充実、理事会、評議員会、寮友会の相互連絡・連携の強化、卒寮生との各種連携活動を盛り込む。

・また、年間行事として、聖書講義（36回）、朝礼拝、入寮式、卒寮式、防災訓練、第4回黒崎幸吉記念賞授賞式・講演会、ホームカミングデー、寮生大会（年2回）、「方舟」編集刊行、「登戸学寮ニュース」2回発行（5月、10月）、クリスマス会、講演会、キャリアフォーラム、スポーツ・レクリエーション会、寮生寮外活動支援等を計画する。

### 2) 2024年度予算、資金調達、設備投資等

・2023年度収支実績見込値を踏まえつつ、来年度収支予算案を策定。事業活動収入については、新入寮生8名、当初寮生数35名（今年度予算と同数の年度平均34名）を想定し、4月からの食費及び共益費の値上げ（それぞれ一人、一月当たり2千円増額）を織り込むこと、一般寄付を前年度同額と見込むことにより、3,540万円（前年度予算対比+190万円）を計上。

また、事業活動支出については、最低賃金の上昇に伴うパート職員の人件費増等増加要因がある反面、経費節減効果や物価高騰の鎮静化傾向も反映させて、対前年度予算額とほぼ同額の2,850万円を計上。

・これにより、事業活動収支差額は、約700万円（+190万円）となる。他方、投資活動支出については、610万円（建物積立370万円、修繕積立200万円等）を計上（+100万円）。この結果、当期収支差額は、プラス約90万円（前年度予算対比+90万円）となる。

（資金調達及び設備資金）

・固定資産取得費として、洗濯機、衣料用乾燥機等40万円を計上したものを電子申請様式に従って県に提出する。

・2023年度末に建物再建積立資産（370万円）、修繕等積立資産（300万円）の積立を行う（別表参照-2023年度実績見込の欄において、投資活動支出額を計上）。

## 3. 黒崎幸吉賞の来年度以降の対応

・名称を「黒崎幸吉賞」から「黒崎幸吉記念賞」に変更する。

・選考委員会委員はこれまで通り10名とし、織田千尋委員の代わりに小西孝蔵常務理事を任命した。

・選抜方式は昨年同様二段階方式とする。6月末までに委員会は推薦者が被推薦者に接触することの要のないものとして推薦を募る、8月末までに選考委員会で選抜し、被推薦者に接触し受賞者を決定する。

・選考委員会は推薦委員を委嘱し推薦を依頼する。推薦委員は個別に委員会に報告する。

・本賞のコンセプトは「地の塩、世の光」であり、そのような人々を発掘することに主眼がある。若手にはその萌芽の状況であれ、学寮のこの共同の歩みにつらなるよう呼びかけ、今後の歩みを励ますことに重きを置く。

・上記の議論を踏まえて本議案は承認されました。

## 4. 入寮選考委員の改選

当該選考委員1名の離任により、選考委員会規程に則り、以下の委員についての改正案が提出され承認されました。

・留任：牛嶋仁理事（1979年入寮）、中央大学法学部教授

・新任：福嶋美佐子理事、筑波大学助教（鷲見八重子顧問の後任）

・新任：千葉美佐子職員（役員以外が必要という入寮選考委員規程準拠）

## 5. 特記事項

内規改版について 登戸学寮法人クレジットカード使用・保管ガイドライン（2023.11.20）を規程集第Ⅱ章「会計ならびに基金、寄付金」の最後にその他の項目で追加記述したこと、共益費・食費の2,000円値上げの追記について報告されました。



2024年度（令和6年度）予算（収支ベース）

(A)

(B)

(単位：円)

科目	2023(令5)年度予算額(年額)	2023年度実績予測額	2024年度予算案	(A)と(B)の差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
事業活動収入				
基本財産運用収入	0	0	0	0
入寮費収入	1,200,000	1,800,000	1,200,000	0
寮費収入	28,080,000	28,990,000	29,980,000	1,900,000
寮費収入(室料)	16,660,000	17,340,000	17,130,000	470,000
寮費収入(食事代)	6,120,000	6,060,000	6,730,000	610,000
共益費等寮生徴収金	5,300,000	5,540,000	6,120,000	820,000
短期宿泊料収入	0	50,000	0	0
寄付金収入	3,500,000	3,619,000	3,500,000	0
寄付金収入(一般)	3,500,000	3,600,000	3,500,000	0
クリスマス献金	0	19,000	0	0
特別寄付金収入	0	0	0	0
雑収入	45,000	134,000	45,000	0
特定費用準備金取崩収入	700,000	670,000	700,000	0
<b>事業活動収入計</b>	<b>33,525,000</b>	<b>35,213,000</b>	<b>35,425,000</b>	<b>1,900,000</b>
事業活動支出				
人件費	10,670,000	10,548,000	11,060,000	390,000
賄材料費	4,680,000	4,470,000	4,680,000	0
会議費・役員会雑費	130,000	166,000	130,000	0
旅費交通費・車両費	200,000	68,000	120,000	-80,000
寮生活動支援・厚生費	1,150,000	1,385,000	1,250,000	100,000
通信運搬費	600,000	530,000	600,000	0
消耗品費・事務用品費	850,000	790,000	850,000	0
修繕費・什器備品費	800,000	900,000	800,000	0
方舟刊行・印刷費	1,100,000	1,220,000	1,180,000	80,000
講演会等諸雑費	500,000	281,360	500,000	0
水道光熱費	3,615,000	2,920,000	2,965,000	-650,000
広報費	1,000,000	930,000	1,000,000	0
図書新聞費	85,000	57,000	87,000	2,000
支払報酬料	1,000,000	1,010,000	1,100,000	100,000
災害保険料・防災費	680,000	493,090	680,000	0
租税公課	400,000	371,000	400,000	0
支払手数料・その他	960,000	808,110	1,060,000	100,000
<b>事業活動支出計</b>	<b>28,420,000</b>	<b>26,947,560</b>	<b>28,462,000</b>	<b>42,000</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>5,105,000</b>	<b>8,265,440</b>	<b>6,963,000</b>	<b>1,858,000</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>				
投資活動収入	0	0	0	0
修繕等特定積立資産取崩収入	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
投資活動支出	5,100,000	7,700,000	6,100,000	1000000
特定資産取得支出	4,700,000	7,700,000	5,700,000	1000000
建物再建特定積立資産取得支出	3,700,000	3,700,000	3,700,000	0
修繕等特定積立資産取得支出	1,000,000	3,000,000	2,000,000	1000000
特定費用準備資金取得支出	0	0	0	0
財政調整積立資産取得支出	0	1,000,000	0	0
固定資産取得支出	400,000	0	400,000	0
建物取得支出	0	0	0	0
建物付属設備取得支出	0	0	0	0
什器備品取得支出	400,000	0	400,000	0
<b>投資活動収支差額</b>	<b>-5,100,000</b>	<b>-7,700,000</b>	<b>-6,100,000</b>	<b>-1,000,000</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>5,000</b>	<b>565,440</b>	<b>863,000</b>	<b>858,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>9,207,398</b>	<b>8,979,531</b>	<b>9,544,971</b>	<b>337,573</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>9,212,398</b>	<b>9,544,971</b>	<b>10,407,971</b>	<b>1,195,573</b>

# 卒寮生インタビュー その5 井藤 智也

在寮期間：2017～2020



「現場で生徒と共に過ごしたいと確か最大手を断り意に合った学習塾を見つけてのお働きいかがですか？」

職場では校長兼実績対策責任者として模試問題の作成等を行っています。さて、情報社会は恐ろしいもので年齢、性別、国籍、職業に関わらず、誰もが同じように様々なデータや思想にアクセスできます。ではその何が恐ろしいのかというと、「子供騙し」が通じなくなっている事です。子供に伝えたくない事があったとしても、彼らの方からそれらを知る事が出来てしまいます。だからこそ、私は彼らの子供扱いしません。特に中学受験においては、すでにその年齢で「傾向と対策」という考え方を身につけ、自分の弱点と正々堂々向き合わないといけません。そういった意味で、「子供だからできないだろう、知らないだろう」と見積りあしらうのではなく、きちんと真実を伝えなければいけないと考えます。例えば、宿題をやっていない時に、「忘れました」とだけ言う事で、彼らの勉強は完全なブラックボックスになってしまいます。宿題をサボったのか、それとも難しかったのか、はたまた本当にやったけど忘れたのか。それによってこちらがやるべきアドバイスが違って来るからと、私は間違った、一方的な指導はしたくないからと、子供たちにはっきりと毎日、伝えていきます。この情報社会、いくらでも虚偽の情報を作り出してしまうからこそ、その真実の価値を知ってほしいのです。目的を考えることの重要性を学んでほしいのです。そうした結果、子供たちが「宿題をサボってしまったので、必ず明日までにやって出します」と自ら約束し、それをしっかり守った時、私自身一番やりがいを感じるのだと思います。

「日本の教育について現場から見えてくるものは？」

現在の日本の教育では、とにかく「主体性」という合言葉の元、子供たちに自ら考えさせるようなカリキュラムが組まれていると思います。いくらでも様々な情報にアクセスできる今日、裏を返せば、自分自身でその情報の良し悪しや信憑性について考えなければならない、という事でもあります。情報通信技術ICT(Information and

Communications

Technology)を活用した

学びは、社会に出て行くまでのモラトリアムの中で非常に価値あるものと考えます。ただし、ここにも注意点があると思います。それは現代の教育の問題点と言えますが、この言い方だと他人行儀が行き過ぎている気がします。私自身もその問題点を担い、解決すべき立場であるので、自ら留意したい事柄です。それは、手段と目的のすり替えです。デジタル化した教材を用いるのはあくまで質の良い教育のための手段です。ICTを使う事がゴールになり、ICTのための授業を展開する事は正しいとは思えません。情報端末を用いて学ぶ事、使いこなせるようになる事は確かに有効です。ですがその結果、見通しが立たなくてもやってみる事、試してみる事、忍耐強くやり続けることで達成できる事、そういった「不便な」学びの喜びを得ることが失われてはならないと考えます。「何のためにするのか」これを考えさせる上で、子供扱いをしている場合ではないと思います。

「一剣術に長け素振りの鋭い音が学寮中庭の闇夜を切りさいていました。短歌や小説の創作にも勤しみ、2020年第21回杉原千畝記念短歌大会で人道大賞を受賞。「世の中のいのちの数だけ朝がある茹でた卵がまだ温かい」は鮮烈でした。社会人となつての創作活動は？」

私は学生時代に短歌に興じ、研究し、幸いな事にいくつか賞を貰っていますが、賞を目的に短歌に励んでいたわけではありません。ただ自身の内側から溢れ出る感情を吐露するという事に、明確な理由も利益も目的もありません。たとえあるにしても別に考えなくたって良いです。そういえば、仕事を始めてからというもの、あまり伸び伸びと短歌を詠んでいない事に気付きました。とはいえ目的や理由ばかりを考えるような生活はしたくないと思い、それで文学に興じるのは、さらなる目的意識に縛られている事になりかねません。私は、子供に目的の大切さを伝えながらも、子供の無垢な言動に、実は、目的なく行動する事の素晴らしさを学び取っているのかもしれない。

聞き手：千葉 恵

# 学寮 寮友会

## 「寮友会」とは

寮のOB・OGで構成。黒崎先生の建寮の趣旨を尊重し、会員相互の親睦と在寮生との交流、支援等を行うとともに、学寮が末永く存続し続けるために必要な諸事業を支援することを目的とします。

### ■寮友会の最近の活動

在寮生との交流、支援の主旨に照らし、たとえば以下のような取り組みを行っています。

### 在寮生への支援

学寮キャリアフォーラム（在寮生に対しOB・OG等が職業・生活等の体験を語り、卒業後の職業や人生を考える一助とする）で、最近では、2023年11月に宮本敬済氏（「IT分野での事業開発」、2003年卒）が講師をつとめました。

### 卒寮生への支援

卒寮を前にした寮生に、寮友会から「卒寮記念品」を贈呈しています。卒寮後の人生に裨益する品として、今春は新渡戸稲造『逆境を越えてゆく者へ』を各卒寮生にプレゼントしました。

### 卒寮生・新入寮生への支援

卒寮記念品として、新渡戸稲造著『逆境を越えてゆく者へ』を各卒寮生に贈呈。また、大学生活に裨益する記念品として、小林秀雄著『学生との対話』を新入寮生に贈呈しました。

このほかにも、いろいろな形での寮生への支援を行って参ります。2024年3月1日時点の役員は「方舟」64号194頁にある通りです。

### ■OB・OGの住所等の情報について

「個人情報」として管理しています。連絡等のため情報の利用を希望される方は下記にご照会ください。[情報管理の観点から、情報の用途や利用者等を確認させていただくことがあります。](#)

連絡先：[岸本gakuryomeibo@gmail.com](mailto:gakuryomeibo@gmail.com)

### ■その他（お知らせ）

学寮では「黒崎幸吉記念賞」（OB・OGで、各分野で活躍している方等に謝意を表明する）の候補に関する情報を募集しています。「こういう人がいる」という情報がありましたら、前記連絡先（岸本）または学寮までご連絡ください。

### ■寮への支援ならびに卒寮生の情報など

OB・OGが在寮生に貢献する方法には、学寮への寄付はもちろん、新規入寮者の紹介や、前記「キャリアフォーラム」講師の紹介などがあります。私達で学寮の将来を支えて行きましょう。

また、OB・OGの近況などの情報を学寮ニュースや方舟等を通じて共有したいと思います。たとえば、同期会などの情報を適宜ご紹介します。

以下、一例として1979年度入寮の同期会を、ご理解を得て紹介します。



後列左から堤、島内、伊藤、木村、石川。前列左から平沢、谷、徳光の各氏（2024年3月2日 品川大飯店）。

席上、欠席者の近況を紹介。会の前日には有志で学寮を訪問。

中庭で寮長と懇談しました。以下はその模様です（撮影：千葉寮長）。

以上は一例です。その他、どのようなことでも結構です。

OB・OGに関する情報のご提供をよろしくお願ひします。連絡先：岸本gakuryomeibo@gmail.com



### ■訃報 三浦永光様 2023年8月（1961年入寮）

俳句鑑賞の手引き 俳人 岸本尚毅（学寮OB）

金沢の三文豪とは泉鏡花、徳田秋声、室生犀星。金沢にはそれぞれの文学館がある。来館者数は鏡花、犀星、秋声の順だという。玉三郎の芝居の原作者の鏡花は今も人気作家。犀星は「ふるさと」は遠きにありて思うもの。とうたった大詩人。秋声は自然主義文学の大家だが、や地味な存在かもしれない。

昨秋、金沢に講演に行つたさい秋声の記念館を訪れ、その展示にあつた「石上の水に雲あり今朝の秋」という秋声の俳句の美しさに驚いた。「石上の水」とは、大きな石の上のうっすらと溜まつている水。そこに雲が映つてい。秋声の人間観察の眼が自然の景に向かうところという句が生まれる。

「生きのびてまた夏草の目にしみる」は昭和十一年、秋声が大病から回復したさいの句だ。俳人の山口誓子は「文学者の作つた俳句としては最高のもの」と絶賛した。今秋は秋声と俳人高浜虚子の関係について講演を行う予定。目下、秋声の小説を読んで勉強している。

# 寄附者ご芳名

ご支援へのお礼とご報告 登戸学寮をお心に覚えていただき、いつもご支援を賜り心から感謝申し上げます。ここにご芳名を記してお礼申し上げます。

2023年9月1日から2024年3月31日まで（敬称略） 個人210名・11団体、総件数336件

## （個人）210名

青木 幹夫、赤羽 礼子、浅野 攝郎、阿部 庄治郎、  
阿部 光成、有賀 実男、有賀 進、安藤 秀夫、  
石川 嗣郎、石川 知生、石原 和義、石原 能行、  
市村 昭三、井出 紀子、伊藤 薫、伊藤 康子、  
稲永 丈夫、犬養 光博、井上 潜、岩沙 克次、  
岩田 堯、内坂 晃、内坂 建、内野 隆三、梅津 光弘、  
越智 好、大内 信一、大川 四郎、大崎 桂介、  
大城 ヨシ子、太田 源左衛門、大谷 陽・翠、  
大友 浩、大山 綱夫、岡田 菊造、興津 修司、  
奥田 信夫、小田部 裕、於保 さつき、  
恩田 美和子、柿沼 蓉子、笠原 千恵子、  
榎 陸人、河東田 邦子、金井 直子、金沢 幾子、  
金子 幸子、加納 貞彦、加納 孝代、川口 陽久、  
川島 重成、岸本 尚毅、北爪 文義、北村 寛、  
木下 真理、木下 智雄、金 道殷、  
木村 護郎クリストフ、木村 秀夫、清永 丈太、  
櫛田 俊明・ジュン、久保 靖彦、久保田 修、  
熊川 忠、栗栖 泰郎、栗栖 陽子、黒崎 光子、  
黒崎 稔、Glodt 恵子、小泉 智博、幸野 道雄、  
小河原 貞一、小島 拓人、小関 道子、小舘 美彦、  
児玉 伸彦、小西 孝蔵、木幡 藤子、小林 俊夫、  
籠屋 公夫、小山 高澄、斉藤 明、酒井 迪郎、  
酒井 玲子、笹井 岩男、佐々木 颯、佐々木 さら、  
佐々木 洋子、佐藤 勝輝、佐藤 裕信、佐藤 全弘、  
佐野 光郎、佐野 好則、渋谷 美登里、島 創平、  
清水 亨、白石 光一、白方 誠彌、白方 勇一、  
白崎 良二、新宮 眞、菅沼 勝子、鈴木 守、  
須藤 浩一郎、鷺見 誠一・八重子、須山 澄子、

副島 茂、副島 浩、副島 正人、曾我 訓久、  
高岡 健二、高木 千賀子、高田 暁治郎、  
高田 秀樹・知子、高橋 朋子、高橋 由典、  
高松 均、高柳 博一、瀧山 晃弘、武井 陽一、  
竹内 栄理、竹内 恵子、竹内 弘之、多田 義国、  
谷田 光弘、田家 従子、千葉 眞、月岡 信裕、  
月本 昭男、土屋 泰次、土屋 真穂、綱野 悦子、  
東方 静夫、徳光 猛、富井 直子、富永 尚、  
友寄 隆房、鳥居 祝子、直木 葉造、  
中村 真理子、南雲 清美、名取 克也、  
西川 信義、西永 頌、西野 勝、西原 偕子、  
西村 真、埜口 滋、野田 一三、野田 利明、  
野々瀬 協子、野々瀬 浩司、羽賀 道信、  
橋内 武、端本 和子、長谷川 浩司、原 研治、  
坂内 宗男・義子、秀村 研二、平田 和吉、  
福岡 和子、福岡 美佐子、藤田 信夫、  
藤原 國土、古角 隆、星住 リベカ、細貝 昭吾、  
本田 圭、前川 契子、正村 邦男、増田 高子、  
松尾 睦、丸山 信子、三浦 一幸、三浦 千尋、  
水越 創斗、三田 洋子、光石 佐与、三矢 恵津、  
三宅 順子、三宅 美枝子、宮崎 修次、  
宮崎 裕明、宮田 咲子、武藤 陽一、望月 昭、  
森 孝、森山 浩二、矢崎 俊二、安井 光、  
安田 裕、矢田部 千佳子、矢野 那奈子、  
山岸 礼奈、山口 和彦、山田 信昭、山本 鐵子、  
山本 浩、横内 信子、吉川 由香子、米村 英二、  
李 善利、Robert Seth Quant、我妻 耕一、  
鷺崎 安久、渡辺 真一郎、匿名4名

## （団体）11団体

あだたら聖書集会、大阪聖書研究会、  
国立聖書研究会、千葉聖書集会、天神聖書集会、

那覇聖書研究会、浜松聖書集会、福岡聖書研究会、  
松本聖書集会、無教会新宿集会、山形聖書集会

## 【編集後記】

今年3月の気温が低く、4月に入りようやく枳形山の桜が咲き始めました。ウグイスの声も聴こえたような聴こえなかったような。中庭には、今まで見かけたことのない白い「ハナニラ」の花がどこから来たのか驚くほど一斉に咲き揃いました。自然界は気まぐれと気楽に考えてよいのか、自然の摂理がかく乱されている深刻な状況と受け止めなければならないのか。まずはゴミの分別とか、不要な電力は使わないとか…基本的な心掛けなのではないでしょうか。「知らんけど」でよいのか？（MC）

公益財団法人 登戸学寮

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 6-6-1

☎044-933-0819 ☒ noborito@gakuryo.or.jp

発行人 小島拓人

編集委員 大谷恵、織田千尋、岸本尚毅、鷺見八重子、  
千葉 恵、千葉美佐子、早川 嗣

発行日 2024年5月10日